

V 研究推進

1 研究主題

自分の考えをもち、対話の中で考えを深める児童の育成
～ すべての活用と建設的相互作用が生まれる授業設計を通して ～

2 主題設定の理由

(1) 昨年度の実践から

昨年度、研究主題を「自分の考えをもち、対話の中で考えを深め、学び続ける児童の育成」とし、副題を「すべての活用と建設的相互作用が生まれる授業設計を通して」と設定して研究を行ってきた。その結果以下のような成果をあげることができた。

昨年度までの実践の成果

- 学習者基点の授業づくりのイメージの共有
- 資質・能力の設定・共有
- 全学年の課題発見・解決学習の単元開発（算数科）

しかし、以下のような課題が明らかになった。

昨年度までの実践の課題

- 課題発見解決学習の取組が、算数科から他教科に広げること。
- 伝え合う力育成に向けて、具体的な指導の手立てを工夫すること。

(2) 学力調査から

本校の算数科における学力調査の結果は、以下の通りである。

学力調査	本校平均	県平均
平成 28 年度「全国学力・学習状況調査」A問題【算数】	75.9	79.7
平成 28 年度「全国学力・学習状況調査」B問題【算数】	37.8	49.5
平成 28 年度 広島県「基礎・基本」定着状況調査A問題【算数】	73.9	74.9
平成 28 年度 広島県「基礎・基本」定着状況調査B問題【算数】	54.5	52.0

以上の結果から、以下に示す成果と課題が明らかになった。

昨年度までの学力調査から明らかになった成果

- 広島県「基礎・基本」定着状況調査B問題【算数】において県平均を 2.5 ポイント上回っており、思考力の向上が見られる。

昨年度までの学力調査から明らかになった課題

- 知識・技能の確実な習得
- 活用力の育成

(3) 資質・能力の設定

本校の児童の課題や今後さらに伸ばしていきたい力について全教職員で議論を重ね、重点的に育成したい資質・能力を次のように設定した。

- 【スキル】
- ① **課題発見力**：「なぜこうなっているのか。」と分析的に課題解決に取り組もうとする力。
 - ② **思考力**：課題解決に向けて、知識や情報を活用して考える力。
 - ③ **伝え合う力**：伝えたい願いをもち、思いを伝えるための技能を身に付け、分かりやすく伝える力。
- 【意欲・態度】
- ④ **耐える力**：困難なことに出会っても、踏ん張って努力し続ける力。
- 【価値観・倫理観】
- ⑤ **自己肯定感**：自分の良さが分かり、自分の目標に向けて前向きに取り組み、継続する力。

3 研究主題について

本校では、「5つの学び方（すべ）」を獲得・活用したり、「建設的相互作用」が生まれたりする授業設計を行うことで授業改善を進め、児童に「5つの学ぶ力」（課題発見力、思考力、伝え合う力、意志力、耐える力）を育成するとともに、自分の考えをもち、対話の中で考えを深める児童の育成をめざす。

また、「協調学習」の理念や知識構成型ジグソー法の手法を取り入れ、自分の考えを大事にして、一人では十分な答えが出せない課題を、みんなで考えを出し合っ、より良い答えをつくり出す「主体的な学び」を進めていきたい。

さらに、本校は平成 28 年度より 4 小学校が統合され、校区が広がった。そこで、学年に応じ、より広い地域の事象について、主体的に学べるような総合的な学習の時間のカリキュラム開発を進めていきたい。

4 研究主題に関わって

「建設的相互作用」とは

三宅なほみ先生は、『東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 自治体との連携による協調学習の授業づくりプロジェクト 平成 22 年度活動報告書』第 1 章 協調的な学習の仕組みの中で、「建設的相互作用」について、次のように説明されている。

話し手Aが一生懸命自分のアイデアをより良くしようとする学びに従事している間、聞き手BはAのアイデアをBなりに理解して、その適用範囲を広げるような学びに従事している。しかもAとBは、時々役割を交代するので、しばらくするとBが解提供者として自分の（最初より適用範囲の広がった）アイデアについてことばにしなから学び直し始めると、それを受け取るAが今度はそのアイデアの適用範囲を広げる方向で学び直す過程が起きる。私自身は、この現象を、「建設的相互作用」と呼んでいる。

「5つの学ぶ力」とは

「5つの学ぶ力」とは、「加計小学校5つの学び方(すべ)」をキーワード化したものである。

- ①課題発見力 ②思考力 ③伝え合う力 ④耐える力 ⑤自己肯定感

加計小学校「5つの学び方(すべ)」

- ①「なぜだろう。」「どうしてかな。」という課題をもっているか。
- ②比べたり関係づけたりして考えているか。
- ③友だちと話し合い、自分の考えを深めたり広げたりしているか。
- ④「やるぞ。」という志をもち、最後まであきらめずに取り組んでいるか。
- ⑤自分のよさがわかり、それを活かそうとしているか。

これらのすべは、子供が社会人となってからも、自律的・創造的に活用して課題発見・解決していく力であり、まさに私達の目指す「人間力」と言える資質・能力である。

5 研究仮説

「5つの学び方(すべ)」を獲得・活用したり、「建設的相互作用」が生まれたりする授業設計を行えば「5つの学ぶ力」(課題発見力, 思考力, 伝え合う力, 耐える力, 自己肯定感)を育成することができ、「人間力につながる深い学び」を創ることができるであろう。

6 研究内容

(1) 児童が「自分ごとの問い」の追究をする授業づくり

児童が知っていることや、経験したことを引き出して使えるようにする。

「本物の課題」を「本物の方法」で追究させるようにする。

児童に「やってみたい。」「やるぞ。」を引き出す課題を設定する。

(2) 学び合いのある授業づくり

自分の考えを伝え、友達の考えをしっかりと聞こうとする。

自分の考えや友達の考えを比較・分類・関係づけて考え、新しい考えを生み出すことができる。

(3) 分かる授業づくり

単元で身に付けさせたい教科の本質を明らかにする。

授業のねらいの焦点化。

必ず適用問題を行う。「こんな力がついた。」が実感できる授業。

(4) 振り返りを大切にされた授業づくり

教科の本質につながる振り返りをさせる。

資質能力の発揮を振り返らせる。

7 検証の方法と達成目標

	指標	達成目標	検証時期	検証方法
成果指標	タイプⅡ問題 通過率	3教科平均 県平均以上	6月	「基礎・基本」定 着状況調査
	(13) 自ら課題を 設定し解決しよ うとしている児 童	肯定的回答 80%	6月, 12月	「基礎・基本」定 着状況調査 及び学校アンケ ート
	(18) 情報 を 比 較・分類・関係付 けして考えてい る児童	肯定的回答 80%	6月, 12月	「基礎・基本」定 着状況調査 及び学校アンケ ート
	(25) 対話を通し て, 自分の考えを 深めたり広げた りしている児童	肯定的回答 80%	6月, 12月	「基礎・基本」定 着状況調査 及び学校アンケ ート
	標準学力テスト	3教科 全国平均以上	1月	標準学力テスト 結果分析